

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	井上 英也		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて習得したホスピタリティ・マネジメントの理念、知識を基礎に、研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とする。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。				論文執筆	50%	
情報収集、分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理、分析した上で、独自の結論を導き出すことができる。				調査結果の内容	30%	
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。 また、他者の研究に対し、適切なフィードバックをすることができる。				研究発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文執筆：50% 題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に評価。 調査結果：30% 題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理・分析力を評価。 研究発表：20% 聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価。 評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。							
授業の概要							
基本的に本授業においては、卒業論文の完成までのロードマップに従い、各自が授業外で準備してきた成果を発表、議論することで研究内容を深めていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「勝つための論文の書き方」鹿島 茂(著)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	演習の概要理解。	予習：シラバスを読む 復習：年間計画の検討
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	論文の主題と骨子①	卒業論文の主題（仮題目）と骨子を考え、要旨をまとめる。	予習：論文主題の検討 復習：主題・骨子の作成
4	論文の主題と骨子②	主題（仮題目）と骨子の発表およびフィードバック。	予習：要旨の作成 復習：要旨の修正
5	論文作成の計画書①	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の作成
6	論文作成の計画書②	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の修正
7	論文作成の計画書③	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の修正
8	論文作成の計画書④	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予習：計画書の検討 復習：計画書の完成
9	論文作成の計画書提出・発表	計画書の提出および発表をおこなう。	予習：発表準備 復習：計画書の修正・完成
10	論文の中間報告①	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
11	論文の中間報告②	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
12	論文の中間報告③	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の作成
13	論文の中間報告④	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	予習：調査の実施 復習：中間報告書の完成
14	卒業研究中間発表	卒業研究の中間発表	予習：発表準備 復習：発表会の振り返り
15	卒業論文中間報告提出総括	中間報告書の提出および夏期休暇中の計画書を作成する。	予習：夏期予定表の作成 復習：夏期予定表の完成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA(CF401)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
3 年次の「専門演習ⅡA・ⅡB」で進めている卒業研究のテーマについて、さらなる取組みを行い論文の完成を目指す。							①⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館学知識を深め、論文を完成させることができる。調査研究の取組み方法を身に付けることができる。				学術論文の執筆	50%	
情報収集、分析力	文献を収集し、内容を理解し、分析することができる。博物館学の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。				研究テーマに関する調査と文献渉猟	30%	
コミュニケーション力	卒業研究のテーマにおける課題に取り組み、調査結果を発表することができる。学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査結果の分析と発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文の題目の決定力と執筆能力 50%、文献渉猟の積極性と理解力、博物館学の思考力 30%、研究発表におけるディスカッションとフィールドワークでのコミュニケーション能力 20%で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授業の概要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。 卒業論文のテーマに関する学術論文や文献を精読し、論文の章立てを考える。現地調査や聞き取り調査などフィールドワークを行い、分析し整理する。卒業論文の執筆を進めて完成させる。							
教科書・参考書							
教科書：『野外博物館の研究』（雄山閣） 参考書：『観光資源としての博物館』『博物館と観光』（雄山閣） 指定図書：『野外博物館の研究』							
授業外における学修及び学生に期待すること							
博物館学はあらゆる学問分野からの視座で論文に取り組むことができる。未踏の分野を研究することで、独自の学問領域を見出すことが肝要である。日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の活動を学ぶことが望ましい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	卒業研究論文の執筆に関する指導。	予習:シラバスの確認 復習:テーマの検討
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習:前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習:本学期的目標設定の清書
3	卒業論文の個別指導①	卒業研究論文の題目・章立てを考える。	予習:参考文献の調査 復習:全体の見直し
4	卒業論文の個別指導②	先行研究の渉猟。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
5	卒業論文の個別指導③	先行研究の渉猟	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
6	卒業論文の個別指導④	先行研究の精読。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
7	卒業論文の個別指導⑤	先行研究の精読。	予習:参考文献の調査 復習:参考文献の精読
8	卒業論文の個別指導⑥	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
9	卒業論文の個別指導⑦	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
10	卒業論文の個別指導⑧	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
11	卒業論文の個別指導⑨	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
12	卒業論文の個別指導⑩	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
13	卒業論文の個別指導⑪	論文執筆と調査。	予習:参考文献の調査 復習:執筆の校正
14	卒業研究発表	卒業研究の発表(中間および最終発表)。	予習:研究発表の準備 復習:研究発表の振り返り
15	卒業研究発表反省会	卒業研究発表の合同反省会。	予習:研究発表の修正 復習:研究発表会の総合的振り返り

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CA 111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
3 年次までの学習を基に設定したテーマについて研究を行い、卒業論文を完成させる。観光学、日本の国際関係史、ならびに観光対象等についての理解を、読み手に分かりやすく整理し、説明できるようになる。プレゼンテーションのスキルを身に付ける。協働と異文化尊重を実践する。							④⑥
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	研究対象に関わる歴史とその現状を理解し、説明できる。				期末レポート	40%	
情報収集、 分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、研究対象に関する情報を収集する。				期末レポート	30%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。 ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会 演習参加状況	10% 10%	
協働・課題解決 力	卒業研究の過程で生じた自他の課題の解決に、協働して取り組むことができる。				演習への 参加状況	5%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への 参加状況	5%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
演習への参加状況、ゼミ内での発表、ならびに期末レポートの3つの角度から評価する。							
授 業 の 概 要							
フィードバックは次の時点で行う。ゼミ内発表会：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に） この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない。各回の演習に先立ち、必要な資料を配付、または各自での収集を指示する。 参考書：小笠原喜康. 2002. 大学生のためのレポート・論文術. 講談社現代新書. 指定図書：白石隆. 2000. 海の帝国. 中公新書.							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. 無断欠席をしないこと。分からないことや困ったことが出てきたら、すぐに担当教員に相談すること。 2. 体力をつけること。分かりやすい文章を書くためには体力が必要。 3. データのバックアップを2つ以上の媒体に定期的にとること。プリンターのインクの予備を用意しておくこと。 4. 初志貫徹。「書き続けるのがつらい」と感じたら、ゴールに近づいてきた証拠。あと一息。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) ①研究に必要な資料をその都度指示・配布するので、要点をまとめておくこと。②毎回のレポートを書くうちに出てきた疑問点をまとめ、質問できるようにしておくこと。以下同じ。
2	省察	3年後期の学修成果を省察し、今期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 研究計画を説明できるようにする
3	卒業研究の準備	①研究計画の報告、②文献調査の指示	(復習) 文献調査実施
4	文献調査	文献調査の報告1 (研究対象の歴史)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
5	文献調査	文献調査の報告2 (研究対象の歴史)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
6	文献調査	文献調査の報告3 (研究対象の現状)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
7	文献調査	文献調査の報告4 (研究対象の現状)	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
8	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
9	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
10	文献調査	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 演習での学習内容のレポート、次回提出
11	草稿執筆1	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
12	草稿執筆2	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
13	草稿執筆3	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
14	草稿執筆4	担当教員の指導に基づいて草稿を執筆する。	(復習) 指導を受けた部分の原稿を次回提出
15	全体のまとめ	①草稿の提出、②草稿の要点の報告、③休暇中の作業予定を確認する。	(復習) スケジュール通り継続して作業する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会性の高い内容に関して、英語で表現することができるようになり、多文化共生社会において交流することができる。</li> <li>・特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。</li> <li>・TOEIC の問題を辞書を使用すれば、概ね解くことができ、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。</li> </ul>							①⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 480 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	40%	
情報収集、分析力	社会性の高い問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	35%	
コミュニケーション力	(1) 社会性の高い内容のコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	5%	
	(2) コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。</li> <li>2. 15 回目に小テストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。</li> <li>3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。</li> </ol>							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC に関して深く学ぶ。(コースの指定は特にしない。)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『脱文法 100 トピック実践英語トレーニング』中山誠一(他)、ひつじ書房。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』TEX 加藤(著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『アカデミック・スキルズ』佐藤望(監修)、慶応義塾大学出版会。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命に自ら学ぶ必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う。英語の習得方法、本専門演習の意義などについて	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期的目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。面談の実施	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	卒業研究について	TOEIC問題、翻訳研究、卒業研究・論文の書き方	予習：TOEIC 1-10について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	ひらがな	TOEIC問題、ひらがなに関する表現、翻訳研究、引用の方法	予習：TOEIC 11-20について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	和太鼓	TOEIC問題、和太鼓に関する表現、翻訳研究、参考文献の書き方	予習：TOEIC 21-30について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	日本の文様	TOEIC問題、日本の文様に関する表現、翻訳研究、図の書き方	予習：TOEIC 31-40について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	能	TOEIC問題、能に関する表現、翻訳研究、表の書き方	予習：TOEIC 41-50について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	論文	TOEIC問題、実際の論文を読み、ディスカッション	予習：TOEIC 51-60について調べる、課題論文を読む 復習：英文 51-60 音読筆写
9	歌舞伎	TOEIC問題、歌舞伎に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習 TOEIC 61-70について調べる、小テスト準備 復習：英文 61-70 音読筆写
10	お盆	TOEIC問題、お盆に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 71-80について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	東大寺	TOEIC問題、東大寺に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 81-90について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	出雲大社	TOEIC問題、出雲大社に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 91-100について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	菊	TOEIC問題、菊に関する表現、翻訳研究、ディスカッション	予習：TOEIC 101-110について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	卒業研究発表	卒業研究の中間発表、および最終発表	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	TOEIC小テスト、休暇中の学びについて、ディスカッション、翻訳研究	予習：TOEIC小テスト準備 復習：小テストの振り返り



授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	中山 忠彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅡA・ⅡB で設定した研究課題について取り組み、卒業論文を完成させることを最終目標とする。卒業論文作成において、健康・スポーツ科学分野で明らかにしたい研究内容を論理的に組み立て簡潔に表現できる能力を身につける。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・卒業論文として、作成規定に則り研究内容を構造的かつ論理的思考を持って説明できる。				・研究レポート	30%	
情報収集、分析力	・卒業論文に関わる文献・データを適切に収集し解析できる。				・研究レポート	30%	
コミュニケーション力	・卒業論文の内容を、プレゼンテーションツールを用いて第三者にも分かりやすく伝えることができる。 ・他の学生と卒業論文の内容について、ディスカッションし意見を柔軟に取り入れることができる。				・プレゼンテーションとディスカッション	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	・自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。				・受講態度	20%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業論文に関する研究レポート（評価比率：60%）卒業論文の研究内容が構造的かつ論理的に記載されているかを評価。研究レポート作成については、授業毎に教員からの指導を行い、研究レポートの内容についてフィードバックする。</li> <li>・プレゼンテーションとディスカッション（評価比率：20%）卒業論文進捗状況の発表内容を評価</li> <li>・受講態度（評価比率：20%）：受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価</li> </ul>							
授業の概要							
<p>本授業では、メディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにする。卒業論文作成のため、自ら設定した研究テーマについて取り組みます。作成した研究計画書に従い研究活動を進めます。研究の軌道修正が必要となった場合や進捗状況によっては、担当教員に相談した上で、授業外で個別に研究活動を実施することがあります。なお、データを取得する際に研究活動に係る実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3</p> <p>参考書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」佐藤 進 他（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1108-1</p> <p>指定図書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）ISBN：978-4-7644-1162-3</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p><b>授業外における学習：</b>データ収集活動など授業以外での活動が卒業論文作成に必要な活動となるため、研究活動のための時間を確保し、積極的に主体的に取り組んでほしい。</p> <p><b>学生に期待すること：</b>スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習の卒業論文作成に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として論理的思考のできる魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の作成について</li> <li>メディアリテラシー（連絡網確認）</li> <li>コミュニケーションワーク（情報交換）</li> <li>前学期の省察を行い、目標を設定</li> </ul>	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
2	卒業論文の構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（文書作成）</li> <li>アカデミックライティング</li> <li>卒業論文の構造と作成方法</li> </ul>	予習：教科書を熟読し、卒業論文の構造を理解しておく 復習：卒業論文作成方法を把握する
3	先行研究の収集①	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（文献検索）</li> <li>アカデミックライティング</li> <li>関連文献の収集</li> </ul>	予習：文献の検索方法を確認 復習：関連文献を収集し、文献の内容を把握する
4	先行研究の収集②	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（文献検索）</li> <li>アカデミックライティング</li> <li>関連文献の収集</li> </ul>	予習：文献の検索方法を確認しておく 復習：関連文献を収集し、文献の内容を把握する
5	研究背景の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（文書作成）</li> <li>アカデミックライティング</li> <li>関連文献の収集と研究レポートへの記載</li> </ul>	予習：研究するに至った背景をまとめておく 復習：関連文献を収集し、参考・引用箇所と出典を記載する
6	研究方法の検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（PPT資料作成）</li> <li>プレゼンテーションの準備</li> <li>研究方法の確立と説明文作成</li> </ul>	予習：研究方法を精査する 復習：プレゼン資料の作成
7	プレゼンテーション ①研究方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションとディスカッション①</li> <li>アカデミックライティング</li> <li>研究方法の確立と説明文作成</li> </ul>	予習：PPT資料を事前に作成する 復習：ディスカッションで得られた指摘や助言から内容を修正する
8	データ収集①	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（測定記録用紙作成）</li> <li>研究方法の確立</li> </ul>	予習：測定機材の準備と確認 復習：測定値の確認
9	データ収集②	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（エクセル表計算）</li> <li>研究方法の確立</li> <li>測定シートの作成</li> </ul>	予習：測定方法を確認しておく 復習：測定値の確認
10	データ収集③	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（エクセル表計算）</li> <li>データ収集とデータ入力</li> </ul>	予習：測定値の吟味 復習：データ入力を完了させる
11	データ解析①	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（エクセル統計）</li> <li>アカデミックライティング</li> <li>収集データの解析</li> </ul>	予習：参考書を熟読し、統計解析の手順について理解を深める 復習：得られた結果の解釈
12	データ解析②	<ul style="list-style-type: none"> <li>メディアリテラシー（エクセル統計）</li> <li>アカデミックライティング</li> <li>収集データの解釈</li> </ul>	予習：参考書を熟読し、統計について理解を深める 復習：得られた結果の解釈
13	プレゼンテーション ②収集データの解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションとディスカッション②</li> <li>アカデミックライティング</li> </ul>	予習：PPT資料を事前に作成する 復習：ディスカッションで得られた指摘や助言から内容を修正する
14	研究レポートの作成 ①	<ul style="list-style-type: none"> <li>アカデミックライティング</li> <li>研究レポート作成</li> </ul>	予習：研究レポート作成の構想を練る 復習：研究レポートの見直し
15	研究レポートの作成 ②	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究レポートの加筆・内容修正</li> <li>研究レポート提出</li> <li>前期の振り返りと課題</li> <li>夏季休暇中の研究活動スケジュール作成</li> </ul>	予習：研究レポートの作成 復習：研究活動スケジュールに従い活動する

授業科目(ナンバリング)	専門演習Ⅲ A (CF401)			担当教員	落合 和昭		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
専門演習Ⅰ、Ⅱにおいて習得したホスピタリティ・マネジメントの理念、知識を基礎に、研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とする							②④ ⑥⑦
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・ 方法	評価 比率	
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。				論文執筆		50%
情報収集、 分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理分析した上で、独自の結論を導き出すことができる。				調査結果の内容		30%
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。また、他社の研究に対して、適切なフィードバックを行うことができる。				研究発表		20%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文執筆：50% 題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に判断 調査研究：30% 題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理、分析力を評価 研究発表：20% 聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価 評価のフィードバックは、授業内外で都度行う。							
授業の概要							
基本的に本授業においては、卒業論文の完成までのロードマップに従い、各自が授業外で準備してきた成果を発表、議論することで研究内容を深めていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：授業時に、指定する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	演習の概要説明と理解。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	(予習) 個人目標を考えておく
3	論文の主題と骨子①	卒業論文の主題(仮題目)と骨子を考え、要旨をまとめる。	(復習) 主題・骨子の作成
4	論文の主題と骨子②	主題(仮題目)と骨子の発表およびフィードバック。	(復習) 要旨の修正
5	論文作成の計画書①	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	(復習) 計画書の修正
6	論文作成の計画書②	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	(復習) 計画書の修正
7	論文作成の計画書③	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	(復習) 計画書の修正
8	論文作成の計画書④	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	(復習) 計画書の修正
9	論文作成の計画書提出・発表	計画書の提出および発表をおこなう。	(復習) 計画書の修正
10	論文の中間報告①	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	(復習) 中間報告書の作成
11	論文の中間報告②	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	(復習) 中間報告書の作成
12	論文の中間報告③	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	(復習) 中間報告書の作成
13	論文の中間報告④	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	(復習) 中間報告書の完成
14	卒業研究中間発表	卒業研究の中間発表	(復習) 発表会の振り返り
15	卒業論文中間報告提出総括	中間報告書の提出および夏季休暇中の計画書を作成する。	(復習) 夏季予定表の完成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA(CF401)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、卒業研究の作成を通して、各自が設定したテーマに関わる専門知識を習得すると共に、関連する情報や資料、文献を自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報を収集する力、情報を批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら社会人として身につけておくべき基礎力の養成を図る。							⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマに関わる基礎的事項を習得し、他者に説明することができる。 テーマに関わる専門的知識を習得し、そのテーマについて今何が問題となっているかを自分なりに説明することができる。				卒業論文 発表と討議	30% 10%	
情報収集、分析力	テーマに関する情報・資料・文献の収集方法について理解し、適切な方法を用いて必要な情報を調査することができる。 集めた情報・資料・文献などを的確に読み取り、客観的な考察を加えることができる。				卒業論文 発表と討議	20% 10%	
コミュニケーション力	卒業研究としてふさわしい体裁・構成を理解し、論理的な文章によって論文を書くことができる。 特定のテーマに関して他の受講者と討議することができる(傾聴・質問・応答)。				卒業論文 発表と討議	10% 10%	
協働・課題解決力	卒業研究のテーマを自ら設定し、そのテーマを探求する社会的意義について説明することができる。				発表と討議	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、作成途中の卒業論文を60%、発表と討議を40%の比率で評価する。卒業論文については、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。なお、演習の無断欠席(特に課題発表の担当となっている日の欠席)は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業は卒業研究の作成を目標として概ね次の内容、手順によって進める。1. 卒業研究のテーマを設定し、執筆スケジュールを確認する。2. テーマに関する先行研究を読みながら研究方法を検討する。3. 卒業研究で探求する問いを確定し、必要な情報・資料・文献の収集を行なう。4. 論文の構成を考え、執筆にとりかかる。なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書・参考書：特に指定しない。テーマに関する文献は適宜授業内で紹介する。 指定図書：白井利明・高橋一郎『よくわかる 卒論の書き方(第2版)』ミネルヴァ書房(2013)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業研究は、大学での4年間の学びを集大成する「作品」である。「作品」を生み出す過程は苦しいが、完成まで各自積極的に資料収集・調査・発表・執筆に取り組んでもらいたい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の進め方を説明し、卒業研究の執筆スケジュールを確認する。	復) 論文テーマの検討
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	テーマの設定	卒業研究として取組むテーマを各自発表する。	予) 発表準備 復) テーマの再考
4	研究方法の検討①	指定された論文を受講者全員で講読し、論文の構成や文章表現、研究方法について学ぶ。	予) 指定された論文の講読 復) 論文作成方法の復習
5	論文を構成する①	論文の問いと題目を確定し、大まかな論文構成を考える。	予) 発表準備 復) 論文構成の再考
6	研究方法の検討②	指定された論文を受講者全員で講読し、論文の構成や文章表現、研究方法について学ぶ。	予) 指定された論文の講読 復) 研究方法の検討
7	論文を構成する②	研究方法を確定し、論文の章立てを考える。	予) 発表準備 復) 論文の章立ての再考
8	論文執筆計画の策定①	論文執筆に必要な情報・資料・文献の収集計画、大まかな調査計画ならびに執筆計画を立てる。	予) 調査計画・執筆計画を立てる 復) 計画の再考
9	論文を執筆する①	「はじめに」の部分の執筆にとりかかる。	予) 「はじめに」の執筆 復) 「はじめに」の再考
10	先行研究及び関連資料の検討①	テーマに関わる先行研究を収集し、紹介する。	予) 先行研究の収集 復) 「はじめに」の再考
11	論文を執筆する②	「はじめに」の部分を発表する。	予) 「はじめに」の発表準備 復) 「はじめに」の再考
12	先行研究及び関連資料の検討②	テーマに関わる情報・資料・文献を収集し、紹介する。	予) 関連資料の収集と整理 復) 研究方法の再考
13	論文を執筆する③	集めた情報・資料・文献をもとに論文を執筆する。	予) 論文執筆作業の継続 復) 論文執筆作業の継続
14	卒業研究発表	卒業研究を発表する(中間および秋学生は最終発表)。	予) 卒業研究発表準備 復) 発表会の振り返り
15	論文執筆計画の策定②	前期の授業の振り返りをおこなうと共に、論文執筆に必要な情報・資料・文献の収集計画、調査計画ならびに執筆計画を見直す。	予) 論文執筆計画の確認 復) 論文執筆作業の継続

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
市民参加型のまちづくりプロジェクトを企画し、長崎県佐世保市をテーマに中心市街地の活性化を図るための実践をおこない、地域の観光情報を発信する。観光の情報発信の手段として映像撮影や FM 放送の実践をおこない、番組を制作して放送することでメディアリテラシーを学ぶ。佐世保市のコミュニティ FM で毎週日曜日に放送される 60 分の生番組を担当している。地域イベントの企画運営と実践的な活動をテーマに地域を学ぶ。							⑥⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	学生の視点で新しい活動やテーマを考え、イベントや番組の作成・出演において、自分の意思を正しく伝え、さまざまな企画ができる				課題提示に対するチームによるプレゼンテーション	40%	
情報収集、分析力	プレゼンテーション力はもちろん、情報機器の操作やネット関連の技術修得、情報コンテンツの作成や他者への提案ができる				企画・番組内容	30%	
コミュニケーション力	学年を超えて意思疎通を図り、チームにおけるコミュニケーション能力を身につけて、常に相手に思いやり、信頼関係を確立する。				授業態度・活動への参加度	20%	
協働・課題解決力	地域情報の発信のための文献検索や調査により地域の歴史を知り、さまざまな視点から物事を考察できる。				地域活性化の企画内容	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNS による情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う。							
授業の概要							
観光情報について実践的に学ぶ。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地で実施する。本講義では、様々な分野の専門も関与して、受講する学生のアイデアを産業界等で実用化することやベンチャー企業を設立するなど、産学協同により大学等における学びを社会実装することを志向した授業を行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：『伝わる・揺さぶる!文章を書く』PHP 新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
この専門演習で専門知識や社会人基礎力を身につけ、地域の活性化に視点をおいて、地域に密着した活性化に役立つ情報、多角的な地域情報を集約し発信する情報発信基地としての役割を重視している。学生が見たまちの魅力を発信するとともに、市民とのコミュニケーションを促進することを期待する。 ※本演習を選択するものは次のコースを履修すること。 観光マネジメント スポーツツーリズム グローバルツーリズム							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	テーマと到達目標	演習のテーマおよび授業における到達目標の決定	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解すること
2	ポートフォリオ・SNS 登録と演習・面談	番組ポートフォリオ・Webの演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：番組準備・番組ポートフォリオ確認すること
3	番組参加	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点・スタジオの場所を把握すること
4	映像機器撮影 実践	専用ソフトを使った検索術・画像・データ管理	予：SNSの登録とメールアドレスを確認と事前準備すること
5	番組参加	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	予：番組テーマの決定すること
6	プレゼンテーション	ソフトウェア操作、3Dアニメーションデザインの演習	予：アニメーションのテーマを決めておくこと
7	映像編集	最新技術での映像ファイル作成演習	予：Youtubeで映像イメージを考えておくこと
8	イベント企画	まちづくりイベントの企画 (情報コンテンツの開発を含む)	予：過去の事例をまとめること
9	番組・映像作成	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組ポートフォリオ確認すること
10	番組・映像参加	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	予：作成原稿の確認と読み合わせる
11	データ処理	計算表作成の応用・新ソフトウェア操作 グラフ・データベースの演習	予：EXCELの操作と関数を予習すること
12	イベント企画	イベント企画事例調査と研究 (情報コンテンツの開発を含む)	予：過去のイベント資料を確認すること
13	番組およびイベント制作実践	イベント企画の準備・情報収集をおこなう。	予：担当になった部門の情報をまとめる
14	成果発表	これまでの活動テーマ、卒業研究の内容をまとめ発表をおこなう	予：発表会形式とするためプレゼンの準備をすること
15	番組およびイベント制作実践	放送への参加、まちづくりに関する活動 (情報コンテンツの開発を含む)	予：作成原稿の確認と読み合わせる



授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習Ⅰ、Ⅱで学んだことを生かし、ことば、社会、文化の学習・教育に関する卒業研究のテーマ設定を行う。このプロセスを通して、各自のテーマに応じて文献収集、資料調査、調査、論文執筆の基礎を学習する。そして、卒業研究のアウトライン報告レポートを作成する。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自分でテーマを設定し、目ざす研究の内容について他者に分かりやすく説明することができる。 研究テーマの独自性について分かりやすく説明することができる。				発表資料 レポート	20 % 20 %	
情報収集、分析力	研究テーマに関する資料、情報、先行文献を収集し、その内容について分析することができる。				アウトライン	30 %	
コミュニケーション力	先行文献や資料、調査から得たことを用いて、分かりやすく発表することができる。 他者の発表にコメントや質問をすることができる。				質疑応答	20 %	
協働・課題解決力	他者のテーマや興味に関心を開き、共に調査、論文執筆プロセスを歩む姿勢を持つことができる。				ディスカッション 相互評価	10 %	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
レポートとアウトラインで50%、発表（資料で20%、プレゼンテーション20%）で40%、質疑応答、ディスカッション10%で評価する。発表、レポートに関しては授業内または個別にフィードバックする。							
授業の概要							
本演習では、ことば、社会、文化の学習・教育に関する卒業研究のテーマについて探究し、その上でテーマを設定する。そして、そのテーマに応じて、文献、資料を読み、調査の計画をする。そしてその結果を発表し、履修者間で対話、協働省察を行い、レポートとしてまとめる。このプロセスを通して、論文執筆の基礎を学んでいく。スケジュールは変更することがある。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：二通ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会 参考書：適宜紹介する 指定図書：細川英雄（2019）『対話をデザインするー伝わるとはどういうことか』ちくま新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文は、これまでの大学における学びをふりかえり、そしてこれからの人生も考えていく人生の設計書になるようなものです。論文執筆プロセスを通して、自分のテーマを設定することからしっかり向き合い、自律的に論文作成を進めていけるよう支援していきます。他者と学び合いながら、新たな考えをつくる姿勢で臨むことを期待しています。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	卒業研究 論文とはなにか	論文とは何かについて学ぶ。論文の書き方、求めるところを確認する。形式ループリックの確認をする専門演習Ⅱの学びを省察し、今学期の見通し、個人目標をたてる。	復習：目標の修正 指定された論文を読み、論文の構成を確認してくる
2	前学期の省察と今学期の目標設定（個人指導）	専門演習Ⅱの学びを省察し、今学期の見通し、個人目標をたてる。	予習：個人ポートフォリオの記入 目標設定
3	研究テーマの探究 意見交換	研究テーマの設定に関し、履修生間で意見交換を行う。	予習：研究テーマ、リサーチクエスチョン 復習：上記の修正
4	論文執筆基礎 1	論文の構成について学ぶ。 論文の構成、アウトラインについて学ぶ	予習：教科書の論文の構成の箇所を呼んでくる 復習：アウトライン
5	検討会 1	論文テーマ、リサーチクエスチョン、計画を発表し、学生同志で検討する	予習：検討会の準備 復習：計画の修正、再考
6	検討会 2	論文テーマ、リサーチクエスチョン、計画を発表し、学生同志で検討する 論文題目の確認	予習：検討会の準備 復習：計画の修正、再考
7	文献調査方法	文献調査方法、資料収集方法、文献リスト作成方法	予習：教科書の文献調査方法の箇所を読んでくる 復習：文献調査を始める
8	アウトライン 1	アウトライン作成説明、文献引用方法	予習；教科書のアウトライン作成の箇所を読んでくる 復習；アウトライン作成
9	アウトライン 2	アウトラインの検討をする	アウトライン作成、検討
10	アウトライン 3	アウトラインの検討をする	アウトライン作成、検討
11	序論の執筆	序論の構成を確認し、序論を執筆する	序論の執筆、検討
12	序論とリサーチクエスチョンの確認	執筆した序論の流れとリサーチクエスチョン、調査方法を確認する	序論の確認と検討
13	中間発表 1	序論、アウトライン、文献リストを用いて中間発表を行う	予習：発表資料作成 復習；省察シート
14	中間発表 2	序論、アウトライン、文献リストを用いて中間発表を行う	予習：発表資料作成 復習；省察シート
15	卒業論文執筆計画策定	卒業研究計画のふりかえりをし、夏休みの計画の確認する	予習：個人ポートフォリオ（卒業研究計画記入）

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p><b>テーマ：「研究テーマを見つけ、関連する先行研究を探しサーベイしよう」</b></p> <p>専門演習ⅠやⅡで学んできた理論や先行研究に基づき、各自が研究テーマを見つけ、それに関連するこれまでの先行研究をサーベイする。これらの蓄積から、この研究テーマの趨勢や残されている課題を見出すことを目標とする。これら一連の過程を通して、観光・観光産業・まちづくりなどの領域の研究課題を見出せるようになる。</p> <p>これに付随して業界研究・企業研究の手法を学び、関心のある業界や企業について調べ、報告し、情報を共有する。</p>							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	専門書や先行研究などを解題することができる。				文献ノートの提出	50%	
情報収集、分析力	専門書や先行研究などを適切に収集して、学術的で社会的に意義のある研究課題を見出すことができる。				発表	40%	
コミュニケーション力	積極的に議論に参加し、貢献できる。提出期日を守る。				ディスカッション	10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>事前連絡のある欠席や遅刻は減点としないが、無断欠席や無断遅刻は、社会的観点から減点とする。</p> <p>文献ノートの提出（50%）は、指定する期日までにポートフォリオで提出する。期日を守らない場合は減点とする。</p> <p>発表（40%）では、作成した文献ノートがまとめられ、各自の研究課題が見出されているかを評価する。</p> <p>ディスカッション（10%）では、他の学生の発表を聞く態度が適切か、他の学生の発表に対する質疑や意見が、積極的に行われているかが評価される。発表およびディスカッションについて、教員がコメントしフィードバックする。</p>							
授業の概要							
<p>各自が選ぶ研究テーマに関連するこれまでの先行研究を探し、文献ノートを作成し発表し議論する。研究課題に対する準備作業は、基本的に授業外における学習で行い、授業においては、授業外において得られた学習・研究の成果（経過）報告と意見交換に重点が置かれる。また、業界研究・企業研究をして発表し、情報を共有する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書・参考書：特に指定しない。</p> <p>指定図書：『経済論文の作法』 日本評論社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
積極的かつ自主的に研究していくことを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	先行研究の検索や収集方法を知る。文献ノートの作成方法を知る。前年度の学修成果を省察し、前期の個人目標設定のための面談を実施する。	関心のあるテーマの先行研究5件を収集する。
2	前学期の省察と 本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	文献解題 (1)	1つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	1つ目の文献ノートを作成する。
4	文献解題 (2)	2つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	2つ目の文献ノートを作成する。
5	文献解題 (3)	3つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	3つ目の文献ノートを作成する。
6	文献解題 (4)	4つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	4つ目の文献ノートを作成する。
7	研究テーマの絞り込み	1～4 の先行研究を整理し、それぞれにどのような違いがあるのか、参考になった点は何かなどをまとめ、報告する。	1-4 の先行研究をまとめる。
8	文献解題 (5)	5つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	さらに先行研究4件を収集し、5つ目の文献ノートを作成する。
9	文献解題 (6)	6つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	6つ目の文献ノートを作成する。
10	文献解題 (7)	7つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	7つ目の文献ノートを作成する。
11	文献解題 (8)	8つ目の先行研究をまとめた文献ノートを報告し、議論する。	8つ目の文献ノートを作成する。
12	文献ノートの整理	8件の先行研究を整理し、その研究の趨勢を把握し、参考になった研究手法や、まだ解明されていない研究課題を導き出す。	報告内容をまとめる。
13	研究課題の設定	これまでの研究成果を踏まえて、残されている研究課題とそれを研究する手法を報告する。	報告内容をまとめる。
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	業界研究・企業研究	関心のある業界や企業を選択し、それについて調査した結果を報告し、共有する。	報告内容をまとめる。 期末レポートを作成する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	竹田 文雄		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
専門演習Ⅰ、Ⅱでの学修と実践を通して得た様々な「気付き・発見」、「ホスピタリティ・マネジメントの理念」、および「関連する時事知識」を基に、学修と研究の集大成としての卒業論文を完成させることを目標とします。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象に対する多面的な分析から、自らの発想で新たな解を求めることができる。				論文執筆	50%	
情報収集、分析力	研究対象について、参考文献、資料、メディア、専門家などから幅広く情報を集め、整理分析した上で、独自結論を導き出すことができる。				調査結果の内容	30%	
コミュニケーション力	研究の成果を聞き手に理解させることができる。また、他社の研究に対して、適切なフィードバックを行うことができる。				研究発表	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文執筆：50% 題目の設定、多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に判断。 調査研究：30% 題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理、分析力を評価。 研究発表：20% 聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価。 評価のフィードバックは、ポートフォリオ、および授業内外でその都度行っていく。							
授業の概要							
卒業論文の完成までのロードマップに従い、基本的に各自が授業外で準備してきた成果を発表し、議論することで研究内容を深堀していく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：授業時に、指定する。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
社会の出来事に興味を持ち、その中から自らが最も興味を持つ研究題目を見出し、深く没頭して課題に取り組む姿勢を期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	演習の概要説明と理解。	(予習) シラバスを読んでおく
2	個人目標の設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	(予習) 個人目標を考えておく
3	論文の主題と骨子①	卒業論文の主題(仮題目)と骨子を考え、要旨をまとめる。	(復習) 主題・骨子の作成
4	論文の主題と骨子②	主題(仮題目)と骨子の発表およびフィードバック。	(復習) 要旨の修正
5	論文作成の計画書①	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	(復習) 計画書の修正
6	論文作成の計画書②	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	(復習) 計画書の修正
7	論文作成の計画書③	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	(復習) 計画書の修正
8	論文作成の計画書④	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	(復習) 計画書の修正
9	論文作成の計画書提出・発表	計画書の提出および発表をおこなう。	(復習) 計画書の修正
10	論文の中間報告①	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	(復習) 中間報告書の作成
11	論文の中間報告②	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	(復習) 中間報告書の作成
12	論文の中間報告③	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	(復習) 中間報告書の作成
13	論文の中間報告④	計画書に基づく調査の実施と中間報告書の作成をおこなう。	(復習) 中間報告書の完成
14	卒業研究中間発表	卒業研究の中間発表	(復習) 発表会の振り返り
15	卒業論文中間報告提出総括	中間報告書の提出および夏季休暇中の計画書を作成する。	(復習) 夏季予定表の完成

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA(CF401)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
専門演習Ⅰ・Ⅱの対象テーマや学習を通じて考えた課題について、さらなる取り組みを進め、題目を決定し、研究論文の完成に向けた資料収集、調査・分析、執筆を行う。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	自分の題目について、その背景の十分な理解に基づく適切な論点の設定がなされた独自の視点での研究論文の執筆につなげることができる。				・論文執筆		50%
情報収集、分析力	研究対象について自分の論点に基づいた情報を得るための文献やWEBでの情報収集を行なうことができる。				・調査内容		30%
コミュニケーション力	自身の研究について、論点を整理して簡潔に発表することができる。				・研究発表		20%
協働・課題解決力	自分以外の発表について、積極的に質問や意見を述べることができる。				・グループ討議		10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
論文の執筆については、題目にそった論点設定、適切な文献資料と理論の構築、独自性のある内容などから総合的に評価する(50%)。調査内容については、必要に応じた現地調査など幅広い情報収集と分析結果を評価(30%)。研究発表(20%)は分かりやすく簡潔な説明に対して評価し、グループ討議(10%)は他者との情報共有や研究成果の共有への積極性を評価する。フィードバックは、講義中またはポートフォリオから都度行なう。							
授業の概要							
自身の興味のある分野から題目の設定を行ったのち、収集した文献や情報から分析と論点整理、仮説の設定を行う。基本的には担当教員からの個人指導と適宜自分の理論をゼミ内で共有しながら、論拠を確かなものにしていく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：特に指定しない。必要なレジュメなどは授業時に配布。 指定図書：『レポート・論文の教科書』小川仁志(ちくまプリマー新書)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では、学生生活の研究の集大成として、社会における出来事に対する真剣な関心を持ち、独自の視点で時間をかけて研究し論文に仕上げていくことで、その達成感を今後の社会生活における礎にしてほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本年度の研究スケジュールを確認共有する。	・シラバス内容の理解。 ・卒業研究題目案を確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	担当教員とともに前学期の省察をと本学期の目標設定をおこなう。	予：前学期の省察と本学の目標設定の下書き 復：目標設定計画書
3	論文題目の確認	各自が策定した論文題目と目標設定の過程を確認、共有する。	予：研究題目の確認 復：執筆予定の整理
4	テーマに関する基礎知識	基本資料文献・テーマ候補となるキーワードを探すの扱い方・資料収集の勉強会を行う。	予：題目と仮説の確認 復：計画の全体の確認
5	論文作成プラン（1）	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予：計画書の検討 復：計画書の作成
6	論文作成プラン（2）	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予：計画書の検討 復：計画書の修正
7	論文作成プラン（3）	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予：計画書の検討 復：計画書の修正
8	論文作成プラン（4）	情報収集の方法を決めた上で、資料目録の作成などのスケジュールを設定し、計画書を作成する。	予：計画書の検討 復：計画書の完成
9	プレゼンテーション	論文作成プランの提出および発表。	予：発表準備 復：計画書修正・完成
10	中間発表準備（1）	作成プランに基づく調査実施と中間報告の作成。	予：調査の実施 復：中間報告書の作成
11	中間発表準備（2）	作成プランに基づく調査実施と中間報告書の作成。	予：調査の実施 復：中間報告書の作成
12	中間発表準備（3）	作成プランに基づく調査実施と中間報告書の作成。	予：調査の実施 復：中間報告書の作成
13	中間発表準備（4）	作成プランに基づく調査実施と中間報告書の作成。	予：調査の実施 復：中間報告書の完成
14	中間発表	卒業研究の発表(中間および最終発表)	予：研究発表の準備 復：研究発表の振り返り
15	まとめ	各自論文の進捗状況と今後の計画について検討する。	今後の研究計画を設定する



授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	山内 美穂		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、履修生各自が独自の研究テーマを設定し、卒業論文を作成することを目的とする。論文の書き方の基礎を学び、テーマの選定や資料収集を行い、完成までの具体的計画を立てたうえで、論文のアウトラインを作成する。							①②⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマを設定し、研究計画を立て、アウトラインを作成できる。				発表資料 研究計画書	20% 30%	
情報収集、分析力	先行研究を集め、内容を理解して整理することができる。				先行研究収集	30%	
コミュニケーション力	調査したことや研究計画について論理的に述べるができる。 他の履修生の発表内容に対し、質問やコメントができる。				発表 ディスカッション	10% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
発表の資料作成で20%、研究計画（論文アウトライン含む）の作成で30%、先行研究で30%、発表で10%、他の履修生の発表に対するコメントなどで10%を評価する。発表や研究計画に対しては授業中または個別にコメントしフィードバックする。							
授業の概要							
<p>学期前半は論文の構成や体裁、資料やデータの収集方法などについて学ぶとともに、卒業研究のテーマのヒントになりそうな問題について分析したり考えたりする。それから先行研究を精読したうえで未解決の課題を探る。後半で論文のアウトラインを作成する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：適宜、プリントなどを配布する。</p> <p>参考書：二通信子ほか『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会 指定図書：高見澤孟ほか『増補改訂版 新・はじめての日本語教育1 日本語教育の基礎知識』アスク, 2016</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>私たちが得られるさまざまな知識の多くは先人の研究の成果である。関心のある分野の未解決の課題を探り出し、そのテーマについて新たな発見をすることは、社会的にも意義あることで、論文として完成させた時の達成感は何物にも替えがたい。履修生にもぜひ、そのような体験をしてほしい。そして、大学時代には「〇〇の研究をしたのだ」と自信をもって卒業してほしい。論文完成までは苦しい道のりかもしれないが、その経験と課程は今後の人生にも大きな力になると考える。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	ゼミの進め方、発表の方法について説明。 休暇中または3年ゼミで興味をもったテーマについて話す	予習：シラバスを読む。 卒研でやりたいテーマを考えてくる。
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き。 復習：本学期的目標設定の清書。
3	論文について学ぶ(1)	論文とは何か、論文の構成や表現、引用の仕方などについて理解する。	予習：配布プリントを読んで、「論文とは何か」を考えておく。 復習：論文の表現。
4	論文について学ぶ(2)	「卒論題目申請」に向け研究の方向性やテーマを決める。	予習：研究の方向性やテーマを考えてくる。 復習：各自、必要な資料を収集する。
5	論文について学ぶ(3)	資料やデータ収集の方法を学ぶ。	予習：教員が出す問題について調べてくる。 復習：データ収集の整理。
6	先行研究	テーマにそった先行研究をさがし、整理する。	予習：研究の方向性かテーマを決める。 復習：教員が出す問題について調べてくる。
7	先行研究	テーマにそった先行研究をさがし、整理する。	予習：先行研究をさがしてくる。 復習：先行研究を読む。
8	先行研究	テーマにそった先行研究をさがし、整理する。	予習：先行研究をさがして読み込んでくる。 復習：先行研究の要約。
9	論文作成計画	卒業論文の提出スケジュールにそって、論文完成までの月ごとの計画をたてる。	予習：発表準備。 復習：研究計画作成。
10	論文に関する意見交換(1)	テーマと先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表準備。 復習：発表に対するコメントシートの作成。
11	論文に関する意見交換(2)	テーマと先行研究に関する発表と議論を行う。	予習：発表準備。 復習：発表に対するコメントシートの作成
12	論文の章立て、アウトライン	論文の構成を考え論文の章立てを考えアウトライン作成する。	予習：論文の章立てを考える。 復習：アウトラインを完成。
13	卒業研究発表	卒業研究の発表：秋卒学生の卒研発表。春卒学生は発表を聞き、コメントしたり自身の研究の参考にする。	予習：卒業研究発表準備。 復習：発表会の振り返り。
14	卒業研究相談	卒業研究の相談（個別）	予習：卒業研究の進捗状況をまとめる。 復習：研究の整理。
15	まとめ	前期を振り返り、学習成果を確認。休暇中にしておくべきことを確認する。	予習：研究の整理。 復習：今後の作成計画を確認。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course provides an opportunity for student plan, research, implement and report on a project in the community. Students will further develop language and personal skills through writing assignments, reading for research and maintaining a personal skills database.							④⑤⑦
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
専門力	Students will be able to plan and complete a project in the community			Plan and report Implementation		20% 20%	
情報収集、 分析力	Students will be able to improve written English using correct academic style			Assignments		30%	
コミュニケーション力	Students will be able to discuss current projects and assignment with other students			In-class engagement		30%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出 席				受験要件			
合 計				100%			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 30% Project plan and report (Create a plan and reflection about a project): 20% Project implementation (Carry out the plan as necessary): 20% Assignments (Complete weekly assignments; maintain personal skills database): 30%							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss and research a local project. From this, they move on to preparing implementing it. The semester concludes with a report and reflection. この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分です。* All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook ( <a href="https://niu.9learn.net/">https://niu.9learn.net/</a> and Google Classroom)							
教科書・参考書							
教科書 : Materials provided by the teacher 参考書 : J.W. クレスウェル、「人間科学のための混合研究法」 指定図書 : Extensive reading books from the library							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ol style="list-style-type: none"> <li>This course is conducted in English.</li> <li>Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work.</li> <li>Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.</li> </ol>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduce the course and review the syllabus</li> <li>• Students learn about each other</li> <li>• What is research? Previous experience</li> </ul>	Read syllabus in advance
2	Seminar business	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>Rubric hyoka</i>, 100 book policy (what &amp; how?), Q-learn, anti-harassment, CLHSC, semester schedule, attendance system, NIU email, standard rubric for academic essays</li> </ul>	Complete the rubric and input any books on Manaba
3	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Conference with seminar teacher about personal goals for the semester</li> <li>• Check <i>Rubric Hyoka</i> and 100 Book status</li> </ul>	Students meet with teacher about rubric
4	Local project week 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present status update on local project</li> </ul>	Prepare status update
5	Local project week 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present status update on local project</li> </ul>	Prepare status update
6	Local project week 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present status update on local project</li> </ul>	Prepare status update
7	Local project week mid-term report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present mid-term report on local project</li> </ul>	Prepare mid-term report
8	Local project week 4	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present status update on local project</li> </ul>	Prepare status update
9	Local project week 5	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present status update on local project</li> </ul>	Prepare status update
10	Local project week 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present status update on local project</li> </ul>	Prepare status update
11	Local project final report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present final report on local project</li> </ul>	Prepare final report
12	Personal skills database 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Update personal skills database</li> </ul>	Prepare 5 skills
13	Personal skills database 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Update personal skills database</li> </ul>	Prepare 5 skills
14	Personal skills database 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Update personal skills database</li> </ul>	Prepare 5 skills
15	Review and final feedback	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Review key points of seminar and goals</li> </ul>	Prepare final reflection

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	浦郷 淳		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、発表資料の作成を通して、各自設定したテーマに関わる専門知識を習得することをねらいとする。関連情報や資料、文献、データを自ら収集し、分析していくことで、受講者の情報収集力、批判的思考、考えを的確に表現する力、論理的な文書を書く力、といった、社会人として身につけておくことが望ましい基礎力の養成を図る。							⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	自らの「問い」の解決に必要な用語や事項を理解し、端的に説明することができる。				発表と討議 レポート	20 % 20 %	
情報収集、分析力	自らの「問い」の解決に必要な資料や情報を自ら収集、整理・分析を通して、指定された形式でレポートに表現することができる。 自らの「問い」の解決を示すために必要なデータや論文などを的確に読み取ることができる。				発表と討議 レポート	10 % 20 %	
コミュニケーション力	自らの主張を根拠を基に行い、他の受講者と議論することができる。				発表と討議	20 %	
協働・課題解決力	テーマを自ら設定し、そのテーマを究る社会的意義について説明することができる				発表と討議	10 %	
多様性理解力						%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レポートを 40%、発表と討議を 60%の比率で評価する。レポートについては、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して批判的・意欲的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容は建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。なお、無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業は卒業論文の作成に向けたものであり、以下の手順によって進める。①卒業論文作成につながるテーマに関して、自分が読んだ興味のある本を紹介する。②テーマを設定し、意見交流、確認を行う。③先行研究を調査しながら、研究方法を検討する。④探究的な問いを確定し、必要な情報・資料・文献の収集を行なう。⑤整理をする中で、発表を繰り返し、論文構成を考えていく。なお、この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、90 分とする。							
教科書・参考書							
教科書・参考書：特に指定しない（資料は適宜配布する）。 指定図書：小笠原 喜康『最新版 大学生のためのレポート・論文術（講談社現代新書）』2018							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業論文の完成に向けて、研究のテーマを焦点化し、議論を深める中で精選していく過程となる。自分のテーマに関する文献や情報は常に意識して授業に臨んで欲しい。毎回僅かでも執筆が進む用意、継続的に取り組む姿勢を期待している。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	授業展開を知る (オリエンテーション)	演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。 自分のテーマを確認する。	予) シラバスの確認
2	本学期的目標設定	本学期的目標を設定する。またそれを基に教員と個別 面談を行う。	予) 本学期的目標設定 復) 本学期的目標の確認
3	本の論評会①	春休み中に読んだ本の論評会を行う。 自分で作ったスライド・レジюмеを基に、発表する。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
4	本の論評会②	春休み中に読んだ本の論評会を行う。 自分で作ったスライド・レジюмеを基に、発表する。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
5	研究テーマの発表・共有①	自らが興味を持った事象について、テーマを設定し、 その内容を発表する。 全体で共有する中で問いを明確にする。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
6	研究テーマの発表・共有②	自らが興味を持った事象について、テーマを設定し、 その内容を発表する。 全体で共有する中で問いを明確にする。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
7	調査事項の発表・検討① (A グループ 3 名程度)	自らが設定したテーマについて、調査状況と明らかに できたことを、レジюмеを作り発表する。 発表を共有しながら、気づいたこと等を述べる。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
8	調査事項の発表・検討② (B グループ 3 名程度)	自らが設定したテーマについて、調査状況と明らかに できたことを、レジюмеを作り発表する。 発表を共有しながら、気づいたこと等を述べる。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
9	調査事項の発表・検討③ (C グループ 3 名程度)	自らが設定したテーマについて、調査状況と明らかに できたことを、レジюмеを作り発表する。 発表を共有しながら、気づいたこと等を述べる。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
10	調査事項の発表・検討④ (A グループ 3 名程度)	自らが設定したテーマについて、調査状況と明らかに できたことを、レジюмеを作り発表する。 発表を共有しながら、気づいたこと等を述べる。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
11	調査事項の発表・検討⑤ (B グループ 3 名程度)	自らが設定したテーマについて、調査状況と明らかに できたことを、レジюмеを作り発表する。 発表を共有しながら、気づいたこと等を述べる。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
12	調査事項の発表・検討⑥ (C グループ 3 名程度)	自らが設定したテーマについて、調査状況と明らかに できたことを、レジюмеを作り発表する。 発表を共有しながら、気づいたこと等を述べる。	予) 発表レジюмеの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
13	前期の成果の発表① (A グループ 4 名程度)	前期調査したテーマについて、スライドおよびレジюме を作って発表する。 発表を聞いて、意見交流を行う。	予) 発表スライドの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
14	前期の成果の発表② (B グループ 4 名程度)	前期調査したテーマについて、スライドおよびレジюме を作って発表する。 発表を聞いて、意見交流を行う。	予) 発表スライドの作成 復) 議論を振り返りポート フォリオに記入する
15	研究テーマの総括的なまとめ	前期の授業の振り返りと夏季休暇中に講読する課題 本を決定する。 夏季休暇後のスケジュールを確認する。	予) 発表会を受けた意見の 整理 復) 振り返りをふまえた論 文執筆

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIA(CF401)	担当教員	江島 弘晃				
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
専門演習 IIIA および IIIB ではこれまでの専門演習での学習を踏まえ、運動生理学や健康科学に関する卒業研究論文の作成に取り組む。自身が自ら課したテーマ・課題を実行し、卒業研究論文を通して論理を上手く表現できる能力を養うことを最終的な目標とする。IIIA では卒業研究論文を作成する上での必要となる実験課題・データ収集に取り組む。							⑤⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	・ 卒業論文の作成規則に則り、研究内容を論理的に実践することができる。					・ 課題の遂行	60%
情報収集、分析力	・ 運動生理学や健康科学に関する最新の情報を原著論文等を通して収集し、卒業論文作成時に活用することができる。					・ 情報収集	30%
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べるができる。					・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	10%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業論文に関する研究進捗を評価基準とする（評価比率:60%）。卒業研究論文を作成する上での研究内容の論理性・構造的または課題解決に向けた情報収集・分析力などを評価する（評価比率:30%）。また、数回の発表機会などを設定し、プレゼンテーション・ディスカッションを適切に表現出来ているか否かも評価する（評価比率:10%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。							
授業の概要							
運動生理学・健康科学に準じた研究活動が円滑に行えるようにする。卒業研究論文作成のため、各自が設定したテーマを基に教員の指導の下、研究活動を実施する。研究に伴うデータ取得活動は演習授業の時間外に行う。研究活動の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッションは参加者全員で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：出村慎一，山次俊介著 「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」（杏林書院）ISBN:978-4-7644-1162-3 指定図書：出村慎一，山次俊介著 「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」（杏林書院）ISBN:978-4-7644-1162-3							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習を通してスポーツ科学・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できることを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することを目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習授業の進め方についての説明</li> <li>・ 個別に学業などに関する面談を実施</li> </ul>	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する</li> </ul>	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	卒業論文のテーマ設定 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心のある研究内容を選択し、卒業論文のテーマの作成を実施</li> </ul>	予習：関心のある研究内容を自身でまとめる 復習：まとめた内容を精査する
4	卒業論文のテーマ設定 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業論文のテーマを発表・議論</li> </ul>	予習：テーマの決定 復習：テーマの再考および議論内容の復習
5	卒業論文のテーマ設定 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業論文のテーマの修正</li> </ul>	予習：修正箇所の発表準備 復習：テーマの修正内容のまとめおよび精査
6	卒業論文の作成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業論文の構成および作成方法</li> </ul>	予習：参考書などの通読 復習：論文の作成方法の復習
7	進捗報告 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による進捗報告</li> </ul>	予習：レジュメ作成方法の確認 復習：進捗内容を自身でまとめる
8	進捗報告 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による進捗報告</li> </ul>	予習：担当者のレジュメ作成 復習：発表時の考察の確認
9	進捗報告 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による進捗報告および研究の方向性の修正</li> </ul>	予習：研究の方向性の修正 復習：発表時の議論内容をまとめる
10	原著論文報告 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による原著論文の報告</li> </ul>	予習：国内の原著論文の検索 復習：原著論文の内容の復習
11	原著論文報告 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による原著論文の報告</li> </ul>	予習：国外の原著論文の検索および和訳 復習：論文の内容に関する議論をまとめる
12	進捗報告 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による進捗報告</li> </ul>	予習：担当者のレジュメ作成および発表準備 復習：議論内容を基にした研究の方向性の修正について復習
13	進捗報告 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による進捗報告</li> </ul>	予習：担当者のレジュメ作成および進捗の数値化 復習：進捗の数値化に関する議論内容について復習
14	前期の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 参加者全員による進捗報告</li> </ul>	予習：総まとめ用のレジュメ作成 復習：前期における研究の進捗内容について復習
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前期授業のまとめと休暇中の課題</li> </ul>	各自設定した課題などの省察



授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF 401)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>人類の文明発祥の地で興った「古代オリエント世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、古代インダス文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。</p>							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	35%	
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	30%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	20%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	15%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、4本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の85%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエント世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、古代インダス文明にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義も実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この演習の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 最古の村落の出現（1）	演習全体の導入と説明 初期農耕牧畜社会の出現と拡散1	復習：今回の復習 予習：初期農耕牧畜社会について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	最古の村落の出現（2）	初期農耕牧畜社会の出現と拡散2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
4	最古の村落の出現（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：ウルク遺跡について調べる
5	古代メソポタミア文明 最古の都市（1）	都市の成立と都市国家間の争い1	復習：今回の復習 予習：シュメール文明について調べる
6	古代メソポタミア文明 最古の都市（2）	都市の成立と都市国家間の争い2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
7	古代メソポタミア文明 最古の都市（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
8	古代メソポタミア文明 最古の都市（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古王国時代について調べる
9	古代エジプト文明（1）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）1	復習：今回の復習 予習：ピラミッドについて調べる
10	古代エジプト文明（2）	古王国時代（ピラミッドが建設された時代）2	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
11	古代エジプト文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
12	古代エジプト文明（4）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：古代インダス文明について調べる
13	古代インダス文明（1）	古代メソポタミアとの海上交易	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
14	卒業研究発表	卒業研究の発表（中間および最終発表）	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	古代インダス文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
これまでの専門演習の流れを汲み、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連して自己が関心を寄せる問題に対する論証力、現場における実践力の具体化を目指す。具体的にいえば、論証力は卒業研究論文として、実践力は設定された模擬授業/指導場面での具体的対応とそれを明文化して指導案として形にすることを旨とする。							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	体育やスポーツの専門的な指導計画の立案や指導実践ができる。また、体育・スポーツの専門的な指導計画の立案や実践経験をもとに個別テーマ研究を論理的にまとめることができる。				・専門的な指導実践 ・研究の論理的展開	25% 25%	
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問題を設定できる。				・問題設定の内容	30%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				・研究発表や実践後の議論内容	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料内容を整理した上で、自身の設定したテーマの研究が取り組まれているか、その内容は論理的に展開されているかを評価する。</li> <li>・運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）を作成し、指導が展開されているかを評価する。</li> <li>・フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育、歴史、社会、文化等を扱う人文科学の研究方法に基づいて、問いを共有するためのレジュメや発表資料、あるいは現場で必要となる指導案を作成する中で、個別に設定したテーマの研究に取り組む。適宜運動実践も交えつつ、テーマ研究や実践について対話形式で議論する。</li> <li>・本演習に通底するのは、体育やスポーツとは何か、指導とは何か、運動を経験することの意味は何か、といった問いを設定しその答えを導こうとする姿勢である。</li> <li>・この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</li> </ul>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 苦野一徳 2017 筑摩書房</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること			
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークを、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングをして情報の蓄積を継続的にすること。それは卒業研究の論理的展開力、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。			
回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・本演習の概要説明 ・個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に 本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	「研究論文」のテーマ設定	テーマ設定の道のり	予習：『新版 論文の教室』を通読 復習：図書の再通読
4	レジュメの作成ⅢA	主張の抽出と思考の言語化ⅢA (テーマ：自身の研究概要の修正)	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定のち再検索
5	指導案の作成ⅢA	授業/指導計画と種目の教材化ⅢA (体育/スポーツ指導の計画立案)	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実技指導法を調べる
6	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：体育、スポーツ、教育)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
7	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 (テーマ：運動が出来ない子はなぜ出来ないのか)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
8	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：ボールゲーム)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
9	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：体育教師とスポーツ指導者のちがい)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
10	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：指導時の声かけ)	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘をもとにレジュメ添削
11	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 (種目：陸上競技関連)	予習：種目のルール確認、担当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
12	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学習 復習：間違い箇所の復習
13	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 (テーマ：体育やスポーツと ICT/VR/IoT)	予習：テーマに適した資料選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	卒業研究発表	卒業研究の中間発表、および最終発表	予習：卒業研究発表準備 復習：発表会の振り返り
15	まとめ	本学期授業のまとめと夏季休暇の課題	・各自設定した研究テーマや作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIA (CF401)			担当教員	東出 朋		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、専門演習 I・II で身につけた知識や方法を使って卒業論文執筆を行う。論文の書き方の基礎を学ぶとともに、テーマの設定、資料収集、資料調査を行い、論文のアウトラインを作る。							③④⑤
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	テーマを設定し、論文のアウトラインを作る。				発表 レポート	20% 30%	
情報収集、 分析力	テーマについて必要な文献を探し、批判的に読み、総合的に理解することができる。				レポート	35%	
コミュニケーション力	他者の発表を的確に理解し、適切な質問をし、建設的なコメントを述べることができる。				ディスカッション リフレクション カード	15%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
発表で 20%、レポートで 65%、授業中のディスカッションへの参加度で 15% を評価する。発表内容、レポートに関しては、討論中または個別指導でフィードバックを行う。							
授業の概要							
まず、卒業論文のテーマを決め、課題を設定する。次に、テーマに関する文献を探し、批判的に読み、まとめる。その後、調査・分析を行う。それと並行して、論文執筆の基礎的な知識を確認する。この授業を通じて、論理的に考える力を養う。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特になし 参考書：特になし 指定図書：石黒圭 (2012) 『論文・レポートの基本』日本実業出版社							
授業外における学修及び学生に期待すること							
論文を執筆する作業は、自分の頭で考え、調べ、表現する、自分との対話である。その過程で、他者と対話することで、自分の考えが変わったり新しい考えを思いついたりする。まずは、自分と徹底的に話し、考える作業に取り組んでほしい。この活動は、実生活でも重要な思考スキルである。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	進め方の確認	予習) シラバスを読む. 復習) 卒業論文のテーマの候補を考える.
2	論文の書き方の基礎 1	論文とは何か. 論文の構成.	予習) 論文, レポート, 小論文の違いを考える. 復習) 配布プリントを読む.
3	論文の書き方の基礎 2	序論・本論・結論について知る	予習) 配布論文を読む. 復習) 配布プリント(課題)を解く.
4	執筆計画 課題設定	卒業論文の提出スケジュールを確認し, 月ごとの目標及び作成の計画を立てる. 論文のテーマに基づいて, 課題を設定する.	予習) 計画の下書き 復習) 計画の清書
5	文献調査 1	各自が設定したテーマに基づき, 図書館やインターネットサイトを利用して文献を収集する. 収集した文献を批判的に読み, まとめる.	予習) 資料を探す 復習) 資料を読んでまとめる
6	文献調査 2	各自が設定したテーマに基づき, 図書館やインターネットサイトを利用して文献を収集する. 収集した文献を批判的に読み, まとめる.	予習) 資料を探す 復習) 資料を読んでまとめる
7	意見交換 1	論文テーマ, 課題, 文献調査のまとめを発表する. 課題の設定が正しいか, 文献のまとめが適切か話し合う.	予習) 発表準備 復習) リフレクションカード記入
8	意見交換 2	論文テーマ, 課題, 文献調査のまとめを発表する. 課題の設定が正しいか, 文献のまとめが適切か話し合う.	予習) 発表準備 復習) リフレクションカード記入
9	論文の章立て 1	論文の章立てを作成する.	予習) 論文のアウトラインを考える 復習) アウトラインを修正する
10	論文の章立て 2	論文の章立てを作成する.	予習) 論文の章立てを完成する 復習) リフレクションカードの記入
11	文献調査 3	各自が設定したテーマに基づき, 図書館やインターネットサイトを利用して文献を収集する. 収集した文献を批判的に読み, まとめる.	予習) 資料を探す 復習) 資料を読んでまとめる
12	文献調査 4	各自が設定したテーマに基づき, 図書館やインターネットサイトを利用して文献を収集する. 収集した文献を批判的に読み, まとめる.	予習) 資料を探す 復習) 資料を読んでまとめる
13	意見交換 3	論文テーマ, 課題, 文献調査のまとめ, 章立てを発表する.	予習) 発表準備 復習) リフレクションカードの記入
14	意見交換 4	論文テーマ, 課題, 文献調査のまとめ, 章立てを発表する.	予習) 発表準備 復習) リフレクションカードの記入
15	前期のまとめ	リフレクションカードの記入 夏休みの計画	予習) 計画に沿っているか確認する 復習) リフレクションカード記入

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IIIA(CF401)			担当教員	末永貴久		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p>専門演習 IIIA および IIIB では、前年度までの専門演習で学んだ内容を踏まえ、スポーツマネジメント・地域スポーツ・運動生理学・測定評価・コンディショニングなどの理論や技術に基づく卒業研究論文の作成に取り組む。学生自身が疑問を持ち、考えたテーマや課題を実行し、卒業研究論文の作成を通して、論理を実践に繋げる視点を養い、また、プレゼンテーションの技術を修得することを最終的な目標とする。IIIA では主に論文を作成するための課題やデータ収集に取り組む。</p>							⑤⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究しようとする内容を論理的に整理し、卒業論文の作成規則に則り、計画することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の取り組み</li> </ul>	50%	
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツマネジメント・地域スポーツ・運動生理学・測定評価・コンディショニングなどに関する情報を、書籍や論文等を通して収集し、卒業論文作成時に活用することができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>情報収集の内容</li> </ul>	30%	
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーションにおいて自分自身の意見を述べ、質問や意見を踏まえた上で、ディスカッションをすることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>質問や意見を踏まえての議論</li> </ul>	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>課題やテーマを明確にした上で、卒業論文作成への進捗状況の評価基準とする（評価比率:50%）。作成する論文における研究内容が適切な論理に基づいているか、課題解決に向けた情報が適切に収集・分析されているかなどを評価する（評価比率:30%）。また、複数回の模擬発表の機会を設定し、プレゼンテーションやディスカッションが適切に行われているかを評価する（評価比率:20%）。課題のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う。</p>							
授業の概要							
<p>卒業論文作成に向けた研究活動がスムーズに行えるよう、実践型の授業にする。学生各自が設定した課題やテーマを基に、教員とコミュニケーションを取りながら、指導・研究活動を実施する。研究に伴う資料やデータの取得活動は主に授業の時間外に行う。プレゼンテーションにより、担当者自身が研究活動の報告を行い、参加者全員でディスカッションを行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない  参考書：「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介（杏林書院）  指定図書：「健康・スポーツ科学のためのExcelによる統計解析入門」佐藤 進 他（杏林書院）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>スポーツマネジメント・地域スポーツ・運動生理学・測定評価・コンディショニングなどスポーツに関わる幅広い分野に触れることで、自身の専門種目に有益な知識や技術を習得し、さらに本演習が、将来にわたってスポーツに関わる礎となることを望む。また、本演習で行うカンファレンスや実習によって、コミュニケーション能力や課題の取り組みなど、社会人の基礎となる能力の向上を目指してほしい。そのために、挨拶や授業態度、時間厳守などの基本的な社会行動を守り、授業を欠席する際には事前に連絡するなどの習慣をつけてほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方について説明する</li> <li>個別に面談を実施する</li> </ul>	予習：シラバスを熟読する
2	前期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期の省察</li> <li>本期の目標設定</li> </ul>	予習：前期の省察について考えてくる 復習：本期の目標確認
3	卒業論文の概要作成 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心のある内容を考え、卒業論文のテーマや概要を作成する</li> </ul>	予習：興味関心のある内容を自身で考える 復習：内容を確認する
4	卒業論文の概要作成 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマや概要を発表する</li> </ul>	予習：テーマや概要の決定 復習：内容を再考する
5	卒業論文の概要作成 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文のテーマや概要を議論・修正する</li> </ul>	予習：修正箇所の発表準備 復習：テーマや概要のまとめと精査
6	卒業論文の作成方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文の構成および作成方法についての説明</li> </ul>	予習：参考書などの通読 復習：論文の作成方法の復習
7	進捗状況報告 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による進捗状況の報告</li> </ul>	予習：レジュメ作成方法の確認 復習：進捗状況をまとめる
8	進捗状況報告 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による進捗状況の報告</li> </ul>	予習：発表レジュメの作成 復習：報告内容の確認
9	進捗状況報告 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による進捗状況報告や研究の方向性の修正</li> </ul>	予習：研究の方向性の再確認 復習：発表時の議論内容をまとめる
10	原著論文検索 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による原著論文の検索</li> </ul>	予習：論文の検索してくる 復習：論文についての復習
11	原著論文報告 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による原著論文の報告</li> </ul>	予習：論文の内容を理解する 復習：論文に関する議論をまとめる
12	進捗状況報告 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による進捗状況の報告</li> </ul>	予習：レジュメ作成などの発表準備 復習：質問や議論内容を基にして、研究の方向性の修正について考える
13	進捗状況報告 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>担当者による進捗状況の報告</li> </ul>	予習：レジュメ作成などの発表準備 復習：完成までのタイムテーブルの確認
14	前期のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>全員による進捗状況の報告</li> </ul>	予習：まとめ用レジュメの作成 復習：前期における研究の進捗内容について確認
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>前期授業のまとめ</li> <li>休暇中の課題作成</li> </ul>	予習：まとめを考える 復習：課題などの確認



授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	川上 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
専門演習ⅡA・ⅡBで設定したテーマについて、先行研究を総括することで、まずは、卒業研究における研究の目的を明確にする。そして、卒業研究の作成を通して、必要な情報を収集する力、自分の考えを口頭で表現する力、書いて表現する力を培っていく。また、他者の研究テーマについても関心をもち、物事を多面的にみる意識を養っていく。							①④⑤  ⑥⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・テーマに関わる基礎的な知識を習得し、自身の研究について、その知識を踏まえ、他者に説明することができる。				発表や討議 卒業研究	10% 30%	
情報収集、分析力	・テーマに関わる先行研究を論文や文献等から収集することができる。 ・先行研究を踏まえ、自身のテーマにおける課題を明確にしたり、整理したりできる。				卒業研究	30%	
コミュニケーション力	・他者の研究にも関心をもち、質問したり、感想を述べたりすることができる。 ・自分の研究についての質疑応答ができる。				発表や討議	10%	
協働・課題解決力	・自身のテーマに関する先行研究の総括から、課題を整理することで、研究の目的を明確にすることができる。				発表や討議 卒業研究	5% 5%	
多様性理解力	・卒業研究に取り組むことを通して、人の心の多様性について理解を深めることができる。				卒業研究	10 %	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、作成途中の卒業研究を75%、発表や討議で25%の比率で評価する。卒業研究については、授業内、また授業外に随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と討議については、テーマに対して意欲的な態度で臨んでいるか、質疑や発言の内容が、建設的な討議を促しているかなどの観点から評価する。							
授業の概要							
授業は卒業研究の作成を目標として概ね次の内容、手順によって進める。1. 卒業研究のテーマを設定し、執筆スケジュールを確認する。2. テーマに関する先行研究を読みながら研究方法を検討する。3. 卒業研究で探求する問いを確定し、必要な情報・資料・文献の収集を行なう。4. 論文の構成を考え、執筆にとりかかる。なお、この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。 参考書：授業時に紹介するので、詳細を知りたい場合や知識を深めたい場合は参照のこと。 指定図書：日本心理学会、執筆・投稿の手引き（日本心理学会ホームページ）							

授業外における学修及び学生に期待すること							
1. 他者の発表内容（テーマ）への理解を深めるために事前に資料に目を通したり、関連資料を収集したりすること 2. 発表の有無に関係なく、毎時間自分の意見を必ず発表することで、自分の考えを整理するよう努めること。 3. 自分の考えの根拠となる客観的資料（論文、文献など）の収集を普段から意識すること 4. 自分にとっての切実な心理的、教育的課題についての問題意識を整理すること。 5. グループワークの際は、互いに意見を出しやすい雰囲気づくりを意識すること。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習の進め方を説明し、卒業研究の執筆スケジュールを確認する。	復) 論文テーマの検討
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	テーマの設定	卒業研究として取組むテーマを各自発表する。	予) 発表準備 復) テーマの再考
4	研究方法の検討①	指定された論文を受講者全員で講読し、論文の構成や文章表現、研究方法について学ぶ。	予) 指定された論文の講読 復) 論文作成方法の復習
5	論文を構成する①	論文の問いと題目を確定し、大まかな論文構成を考える。	予) 発表準備 復) 論文構成の再考
6	研究方法の検討②	指定された論文を受講者全員で講読し、論文の構成や文章表現、研究方法について学ぶ。	予) 指定された論文の講読 復) 研究方法の検討
7	論文を構成する②	研究方法を確定し、論文の章立てを考える。	予) 発表準備 復) 論文の章立ての再考
8	論文執筆計画の策定①	論文執筆に必要な情報・資料・文献の収集計画、大まかな調査計画ならびに執筆計画を立てる。	予) 調査計画・執筆計画を立てる 復) 計画の再考
9	論文を執筆する①	「はじめに」の部分の執筆にとりかかる。	予) 「はじめに」の執筆 復) 「はじめに」の再考
10	先行研究及び関連資料の検討①	テーマに関わる先行研究を収集し、紹介する。	予) 先行研究の収集 復) 「はじめに」の再考
11	論文を執筆する②	「はじめに」の部分を発表する。	予) 「はじめに」の発表準備 復) 「はじめに」の再考
12	先行研究及び関連資料の検討②	テーマに関わる情報・資料・文献を収集し、紹介する。	予) 関連資料の収集と整理 復) 研究方法の再考
13	論文を執筆する③	集めた情報・資料・文献をもとに論文を執筆する。	予) 論文執筆作業の継続 復) 論文執筆作業の継続
14	卒業研究中間報告会	卒業研究の進捗を報告する。	予) 中間報告発表準備 復) 発表会の振り返り
15	論文執筆計画の策定②	前期の授業の振り返りをおこなうと共に、論文執筆に必要な情報・資料・文献の収集計画、調査計画ならびに執筆計画を見直す。	予) 論文執筆計画の確認 復) 論文執筆作業の継続

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	井畑敦子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習ではこれまで習得したアカデミックスキルと方法論を活かし、学びの集大成としての卒業研究の完成を目指す。つまり、2年時に吸収した社会科学の理論的構築と3年時に実践した質的調査のフィールドワークを基に、実際に研究してきたことを卒論として形にしていく。多様な先行研究に学び、学術的な論理的客観的思考を展開し、収集したデータを学術的な抽象度を高めてクリティカルに分析し、観光人類学における新しい知見を提供することを目指す。							④⑤⑥⑦ ⑧⑩⑪⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	フィールドデータに基づいた帰納的な理論構築が展開でき、客観的に論点を整理し、説得力を持って新たな知見を伝えることができる。				・卒論 ・文献収集	40%	
情報収集、分析力	観光人類学的見地からデータ収集・処理・分析をし、課題設定に基づいた方策を提示できる。				・データ収集 ・卒論	30%	
コミュニケーション力	論文作成が最適なものとなるようゼミ内外での連絡を密にとり、クラスメートやインフォーマントと協力しながら、質の高い論文を構成し表現できる。				・卒論 ・意見の陳述	20%	
協働・課題解決力	論文とその過程の発表を通して課題を共有し、建設的な意見交換ができる。困難にぶつかっても仲間と協力し合い助け合い論文作成を遂行できる。				・卒論 ・グループワーク	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>論文執筆：卒業論文の題目の決定と執筆 50%－多面的な視点からの分析、理論構築の方法、結論の独自性などから総合的に評価する。題目に関する幅広い情報収集力と結論に導くための整理・分析力が重視される。文献ノートがまとめられ、各自の研究課題が見出されているかを評価する。</p> <p>調査結果：研究発表 30%－聞き手の興味を喚起し、聞き手と研究成果を共有するプレゼンテーション力を評価する。プレゼンやディスカッション時、他の学生の発表を聞く態度が適切か、他の学生の発表に対する質疑や意見が積極的に行われているか注視する。ゼミ構成や質に直接的にかかわり、ゼミ仲間の卒論向上にも帰するので、重きを置く。</p> <p>授業参加と課題提出 20%：中間発表会での質疑応答、宿題や発表スライド、原稿の提出、リアペなどのフィードバックによる授業貢献など積極的で自発的な取り組みを評価する。卒論の期限内提出を順守することにもつながるので、未提出や遅延は厳格に処する。フィードバックは、ポートフォリオを通して行う。</p>							
授業の概要							
卒業論文の完成、提出を目指すことに焦点を当てる。ロードマップに従い最大限の準備をし、最適値の成果を発表、議論しながら内容を深めていく。研究課題に対する準備作業は、基本的に授業外における学習で行い、授業においては、授業外において得られた学習・研究の成果（経過）報告と意見交換に重点が置かれる。テーマに関する学術論文や文献を精読し、論文の章立てを考える。現地調査や聞き取りなど休みを利用して集めてきたデータを分析し整理する。各自が選ぶ研究テーマに関連するこれまでの先行研究を探し、文献ノートを作成し発表し議論する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
<p>教科書：『質的研究 Step by Step 第2版：すぐれた論文作成をめざして』 波平恵美子 医学書院 2016年</p> <p>参考書：『質的研究法マッピング』サトウタツヤ 新曜社 2019年</p> <p>指定図書：『初めて質的研究を書くあなたへ』太田裕子 東京図書 2019年</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

卒業研究は大学教育4年間の集大成である。一人で研究の設計から調査実施、分析、執筆までを完遂することで成長できる貴重な機会であるため、継続的かつ主体的な学習態度を持って課題に取り組む姿勢を期待する。そのためにも期限より余裕をもって卒論提出することを至上とする。具体的な実現に向けてタイムマネジメントスキルや、論文作成能力を向上できるようアカデミックスキルに磨きをかけていくので、積極的自律的に参加し、ゼミの質向上に貢献できるものを望む。よって必ず課題は期限前に提出し、発表が遅れるなどしてゼミ仲間の進行の支障になることがないよう努めてほしい。意欲的に取り組み、学問的に刺激の高い環境づくりを率先して行うことを希望する。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	先行研究、研究計画など進捗状況を確認する。先行研究の検索や収集方法を知る。文献ノートの作成方法を知る。	現状報告できるようまとめておく。関心のあるテーマの先行研究20件を収集し、発表できるようにしておく
2	前年度の振り返りと目標設定	前年度の学修成果を省察し、個人目標や学習成果を振り返り、執筆計画と新たな目標を確認するため面談をする。	現在の自分の興味、目標を整理、再確認しておく
3	文献渉猟と資料の読み込み	各自の論文に関係する先行文献を渉猟し、精読する。先行研究をまとめりサーチクエスチョンを確認する。	文献を招集し精査する
4	フィールドワークのフォローアップ	休みなどを利用して行ったフィールドワークの不足分を補う。各自の論文に関係する先行文献を渉猟し精読する。	必要であればインフォーマントとコンタクトを取っておく
5	フィールドワークのフォローアップ	フィールドワークの不足分を補う。先行文献を基に論文の執筆を準備する。	現地の背景的な情報も抑えておく
6	データ処理	フィールドで収集したデータを整理しまとめる。	KJ法やテキストマイニングなど質的調査法を復習する
7	データ処理	フィールドで収集したデータを整理しまとめる。	実際にデータ処理の方法を確認しておく
8	データ分析	処理したデータを分析、解釈する。	関連する文献や最新の知見を参照し、深める
9	データ分析	処理したデータを分析、解釈する。	処理したものを共有できるようまとめておく
10	フォーマット	章立てや全体の構成を考える。	授業で共有できるようまとめておく
11	フォーマット	各章の執筆を始める。	プレゼン時にお互いを指摘しあえるように準備しておく
12	導入部分執筆	背景や意義とともに先行研究を中心にまとめていく	PPTにまとめ、プレゼンできるようにしておく
13	メインパート執筆	ボディとなる部分の具体例を展開しながら洞察を深める。	PPTにまとめ、プレゼンできるようにしておく
14	結論部分執筆	論文としての体をなすよう形を整える。	PPTにまとめ、プレゼンできるようにしておく
15	まとめ	各自が研究執筆活動を振り返り共有するため、まとめの発表を行う。	半期のまとめ発表の準備をする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	長津恒輝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習ⅢA およびⅢB では、スポーツ健康科学分野に関する卒業研究に取り組む。その際、学術的なルールに則った実験や調査方法の習得や科学的な思考力を獲得する。ⅢA では、卒業研究のテーマ設定や計画、データの収集を行う。							②③④
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	・卒業論文執筆にあたり、研究計画および測定を理論的に展開できる					・研究課題の遂行	50%
情報収集、分析力	・自身が設定した研究テーマに着想した背景について先行研究を基に説明できる					・情報収集	30%
コミュニケーション力							%
協働・課題解決力	・それぞれが取り組む上で、ゼミ生メンバーと協力し、互いに助言しあうことができる					・受講態度	20%
多様性理解力							%
出席						受験要件	
合計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業研究の進捗状況および取り組む姿勢を評価する (50%)。取り組む課題の研究方法を複数の先行研究を基に吟味されているかを評価する (30%)。研究は独立して行うのではなくチームで協力して進められるように互いの測定に積極的に参加しているかを評価する (20%)。フィードバックはポートフォリオを用いて行う。							
授業の概要							
これまでの専門演習で培った経験を活かして卒業研究に取り組む。各々がそれぞれの研究課題に向き合い、実験あるいは調査を行う。進捗の確認およびデータの確認は全員で共有し、都度ディスカッションを展開する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 参考書：「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」福永哲夫，山本正嘉，市村出版 指定図書：「体育・スポーツ分野における実践研究の考え方と論文の書き方」福永哲夫，山本正嘉，市村出版							
授業外における学修及び学生に期待すること							
卒業研究に取り組むことで、スポーツ健康科学分野における課題を把握し、それに対し興味関心を持って明らかにすることを期待する。測定や文献交渉は本講義外で実施するため、各自が立てた研究計画に沿って活動することが求められる。また、卒業論文提出の期日は決められているため、進捗によって計画を柔軟に修正することを望む。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・春季休暇中の活動報告</li> <li>・前学期の省察と本学期の目標設定</li> <li>・本演習の進め方についての説明</li> </ul>	予習：活動方向用のスライド作成 復習：ゼミ内容の全般的な確認
2	組織（ゼミ）作り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロセスエデュケーション</li> </ul>	予習：自身の持ち味を考える 復習：ゼミ活動での役割を考える
3	卒業研究の進め方①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間を通した計画についての説明</li> </ul>	復習：取組みたい研究テーマを考える
4	卒業研究のテーマ設定①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・興味関心のある研究テーマおよび内容を発表し、質疑に応える</li> </ul>	予習：取組みたい研究内容を発表できるように準備する 復習：修正を加える
5	卒業研究のテーマ設定②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回から修正を加えたものを共有し、取組むテーマを決定する</li> </ul>	予習：文献交渉を含んだプレゼン資料を作成する 復習：研究方法を考える
6	卒業研究方法の共有①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人が研究方法を発表し、全員で検討する</li> </ul>	予習：具体的な研究方法のプレゼン資料を作成する 復習：修正を加える
7	卒業研究方法の共有②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人が前回の検討を経た上での修正を加えた研究方法を発表し、全員で検討する</li> </ul>	予習：プロトコルを詳細に考える 復習：修正を加える
8	卒業研究の進め方②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各人が研究計画を発表し、全員で検討する</li> </ul>	予習：研究計画をプレゼンできるように準備する 復習：修正を加える
9	卒業研究の進捗報告①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有</li> </ul>	研究に着手し、疑問点や懸念点を共有できるようにする
10	卒業研究の進捗報告②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有</li> </ul>	測定時に起こった問題を共有できるようにする
11	卒業研究の進捗報告③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有</li> </ul>	被験者の条件および依頼する規定を確認する
12	卒業研究の進捗報告④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有</li> </ul>	予備実験の結果をまとめる
13	卒業研究の進捗報告⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・該当者による卒業研究の進捗状況の確認および共有</li> </ul>	測定に使用する消耗品の数量を確認する
14	卒業研究の進捗報告⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員による卒業研究の進捗状況の確認および共有</li> </ul>	予習：進捗状況を報告できるようにまとめる 復習：研究計画の修正
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今期の振り返り</li> <li>・夏季休暇中に取組む内容の共有</li> </ul>	夏季休暇中の計画を立て、実行する

授業科目(ナンバリング)	専門演習ⅢA (CF401)			担当教員	張 美慶		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	4 年・前期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
論文作成は大学生活での努力を通じて得られる結果である。本授業では今まで学んだ知識を踏まえ論文作成のために論文作成の形式、体制などを学び研究方法と結果を明確にする。							⑤⑦⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	論文作成のテーマ選定、論文構成のプロセスを認識し、論文完成まで結びつけることができる。				卒業研究の中間提出	50 %	
情報収集、分析力	論文テーマに沿った文献を探索して分析することができる。				卒業研究の中間提出	30 %	
コミュニケーション力	研究した内容を発表することで、質疑応答に対応することができ、発表態度を身につけることができる。				研究成果発表	20 %	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
卒業研究の中間提出（80%）および研究成果発表（20%）では、研究の背景、テーマ選定、文献調査方法、分析方法の観点で評価する。フィードバックは、授業時に適宜行う。							
授業の概要							
本授業では論文構成とそのプロセスなど論文作成に必要な全般的な知識を学ぶことができる。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：小笠原喜康（2018）『最新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書 参考書：必要に応じて資料等を紹介する。 指定図書：特に指定しない。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
論文は特定主題に関して探求した研究過程を文章で作成したものである。研究テーマの選定から論文完成までの一連の過程を通じて、このような経験が社会で報告書作成等に役立ててほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	ガイダンス	授業の流れを理解する。 論文執筆のためにテーマを考える。 研究の目的と必要性について考える。	予:シラバスを把握する。 復:論文作成方法についてインターネット資料などを調べる。
2	省察、個人目標設定	前学期の省察を行う。なお、個人目標設定のため個別の面談を実施する。	面談の準備
3	論文作成の基本ルール	論文書き方の基本ルールについて学ぶ。	予、復:論文書き方の基本知識について整理、確認をする。
4	卒業研究作成指導	自分で決めたテーマを絞る。	予、復:研究テーマの再確認をする。
5	卒業研究作成指導	テーマ選定検討後決定、論文計画スケジュール表を作成する。	予:論文計画について考える。 復:フィードバックした論文テーマについて論文計画を整理してみる。
6	卒業研究作成指導	自分の研究テーマに沿った文献を調査。	予、復:論文のテーマに沿った文献を調べてみる。
7	卒業研究作成指導	自分の研究テーマに沿った文献を読む。	予:調査した文献をよむ。 復:読んだ文献を整理する。
8	卒業研究作成指導	自分の研究テーマに沿った文献を読む。	予:調査した文献をよむ。 復:読んだ文献を整理する。
9	卒業研究作成指導	論文目次を構成する。	予、復:論文の目次構成について確認して整理する。
10	卒業研究作成指導	作成した論文の目次構成を検討した上でフィードバックを行う。	予、復:論文の目次構成について確認して再整理する。
11	卒業研究作成指導	選んだテーマで卒業研究を作成する。	予、復:論文執筆。
12	卒業研究作成指導	選んだテーマで卒業研究を作成する。	予、復:論文執筆。
13	卒業研究作成指導	選んだテーマで卒業研究を作成する。	予、復:論文執筆。
14	卒業研究発表①	卒業論文の中間発表。	予:発表論文の準備。 復:論文修正。
15	卒業研究発表② まとめ	卒業研究の中間発表。 今までの研究成果を踏まえて今後の研究を考える。	予:発表論文の準備。 復:論文修正、今後の研究を整理、確認をする。